

大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

金生山の陸産貝類

金生山の山頂に明星輪寺という古刹があります。持統天皇の勅願により、役の小角が朱鳥元年（686）に創建したとされており、本尊虚空蔵菩薩を安置しています。この寺は日本三虚空蔵の一つにも数えられており、1月12日・13日の初虚空蔵には、お参りの列が夜を徹して続く賑わいを見せます。地元の人たちに「虚空蔵さん」の愛称で親しまれているこの寺は、山号を「金生山（かなぶさん）」といい、金生山明星輪寺（かなぶさんみょうしょうりんじ）というのが正式な寺の名称です。金生山（きんしょうざん）という山の名称はこれに由来しています。

寺の境内地には陸産の貝類（陸貝）が数多く生息しています。これらの陸貝については、大垣内宏によって調査され、昭和47年に「金生山の陸貝」としてまとめられたことから境内全域が「金生山の陸貝とその生息地」として岐阜県の天然記念物に指定されることになりました。近年はこの陸貝を餌として生息する姫蛭が人気を呼ぶようになり、毎年6月には観察会が開催されています。

陸貝は、大雑把にとらえるならばカタツムリの仲間ですが、たくさんの種類があります。陸貝は、水中に生活していた貝類の中で、腹足類（巻貝）の一部が陸上で生活できるように進化したものです。世界では約3万5千種、国内でも約800種が知られており、嫌われ者のナメクジも陸貝の仲間です。大きさは、殻高が20cmもある大型種から1mm程の超小型種まであります。陸貝は、海の貝に比べて形や色彩は地味ですが、中には毛が生えているものや、細長いもの、蓋をもっているものなど変わった形体の貝がいますし、熱帯域の陸貝には鮮やかな色彩の貝がいます。



オトメマイマイ

大垣内宏は「金生山の陸貝」で14科38種を紹介していますが、その中には現在確認できない種がいくつか含まれています。このことに気付いた西濃陸貝研究会の会員によって、金生山の山麓も含めた追跡調査が行われ、生息確認のできない種や、未報告種も含めて19科58種（亜種を含む）からなる「金生山産陸産貝類目録」（2008：松本和芳）がまとめられました。しかし微小な貝については種の確認が不十分であり、未調査の区域も残されていることから、現在再調査が進められています。数年後にはより明確な全体像が分かってくるものと期待されます。

← ミカドギセル





上： クロダアツクテムシオイガイ
下： ヒルゲンドルフマイマイ
スケール： 上： 5mm 下： 1cm

陸貝は石灰岩地を好むようで、石灰岩地には他の地域よりも多くの種や個体が生息します。また、石灰岩地にしか分布しない種も存在します。移動能力に劣る陸貝は、地域による変異も大きく、多くの地方種が知られています。さらに限られた地域にのみ生息する固有種も多く存在します。金生山には、ミカドギセル、ヒルゲンドルフマイマイ、アメイロヒルゲンドルフマイマイ、ミノマイマイなど伊吹山系の固有種が生息しています。また、クロダアツクテムシオイガイやオルサトギセルなど、金生山の一部でしか生息が確認されていない希少種も存在します。

近年、金生山でも陸貝の生息数の減少が目立つようになってきました。私が化石館に赴任した7年前、雨上がりになるとアプローチの石組みにオトメマイマイの姿を多数見ることができました。しかし、最近では注意して見ているのですがほんの数個体しか確認できません。明星輪寺の岩巢公園では、ゴマオカタニシやクチマガリスナガイの姿がまったく見られなくなりました。モミジヤマキサゴも以前は多数生息していたのですが最近ではめったに姿を見掛けません。普段は特に気にしていませんが、環境の変化は着実に進行しているようです。



お知らせ

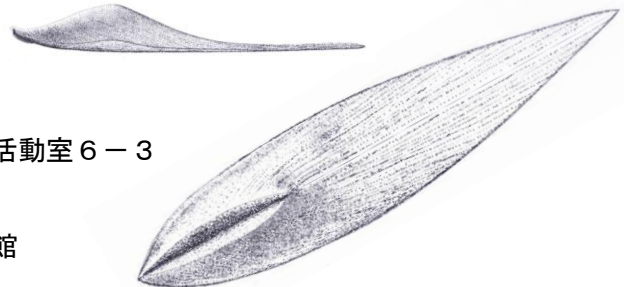


化石講演会

「 巨大化石 シカマイアの復元 」

金生山で発見された史上最大とも言われる巨大な二枚貝、シカマイア・アカサカエンシスの姿が復元されました。そこで、シカマイアに関する研究の歩みや形体復元における問題点など、研究に携わった研究者から直接お話を伺います。

日 時： 9月11日（日） 午後2時より
会 場： スイトピアセンター 学習館 かがやき活動室6-3
講 師： 安里 開士（筑波大学大学院）
主 催： （公財）大垣市文化事業団・金生山化石館
共 催： 金生山化石研究会



問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp